



ゴッホ「星月夜」
亡くなる前年に、精神病院で療養中に描かれた作品

星がテーマの芸術・文学

星を題材にした芸術に、なぜか心惹かれます。

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」には、沢山の美しい星の描写があり、頭の中には満点の星空が広がり溜息が出そうになります。約100年前に書かれた作品ながら、現代天文学で理解できる部分が多いそうです。印象派のゴッホも天文学の知識が豊富だったとのこと。星に惹かれる芸術家は繊細かつ豊かな感性の持ち主ゆえに、多くの方に愛されているのかもしれないね。



「もうぢき白鳥の停車場だねえ。」「あゝ、十一時かつきりには着くんだよ。」
「銀河鉄道の夜」の一節です。十字の形をした星座で「北十字星」とも呼ばれる白鳥座。そのしっぽ部分にあたるのがベネブ。ベネブ・ベガ(おり姫)・アルタイル(ひこ星)を結ぶと夏の大三角。実際に白鳥座は8月上旬、11時頃に天頂に見えるのだそうです。このような天文の知識があると、「銀河鉄道の夜」がより一層楽しめそうですね。



こんな七夕の楽しみ方も

七夕の時期が近づくと、七夕にちなんだプログラムを上映しているプラネタリウムがあります。束の間、座り心地の良いリクライニングシートに身を委ね、満点の星空を眺めるのはとても贅沢なものです。近くにプラネタリウムが無い、七夕の日に星空が観れない時は(七夕の晴天率は約20%だそう)、お家に居ながらにして素敵な星の世界を堪能する手がありあます。美しい映像・ナレーター・音楽で「銀河鉄道の夜」の動画を見つけました。

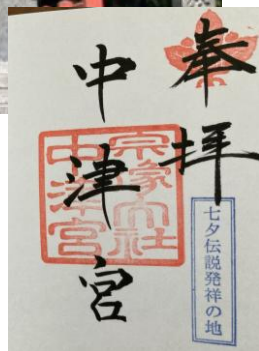


次ページは七夕伝説発祥の地や星の信仰について綴っています。PDFでご覧いただけます。

七夕伝説発祥の地 宗像市中津宮



【宗像市の大島情報】
大島へのアクセスは本土から
フェリーで20分前後です



福岡県宗像市の大島は、七夕伝説発祥の地とされています。この島には宗像大社中津宮があり、(宗像三女神の次女のたぎつひめ様をお祀り)境内に流れている川は「天の川」と名づけられています。その川を挟んで2つの神社があり、それが織女神社(おりひめ)と牽牛神社(ひこぼし)。夜空と同じ配置で神社が鎮座している所にロマンを感じますね。右は、霊水であり湧き水、天真名井で、天の川と合流します。毎年8月7日は七夕祭が開催されます。日本各地には七夕にまつわるおまつりや、七夕仕様のご朱印を頂ける神社やお寺があるので、訪ねてみるのも良いですね！



天真名井(あめのまない)

信仰の対象としての星



北極星を神格化した妙見菩薩に対する信仰を、妙見信仰と言います。日本の古事記に登場する、宇宙根源の究極神「天之御中主」(あめのみなかぬし)は妙見菩薩と同一視されています。不動の北極星は常に中心的な存在と考えられていたためか、



多くの武将も北極星を信仰。葛飾北斎も妙見信仰だったようです。

左の絵にはその信仰がうかがえる粋なシカケがあるのですよ。ぜひ拡大して考えてみてください。(答えは次ページです)

星(五芒星)：結界・魔除け



五芒星の交通安全御守り(車用)

西洋・東洋において五芒星(中心が正五角形で一筆書きできる星形)は魔除けとされてきました。安倍晴明の家紋や御札は五芒星です。

